

児童生徒が伸長を実感できる教育の実践分析

～ 全国学力・学習状況調査質問紙の共通項目の分析を通して ～

大分県教育センター教科研修部

指導主事 西村 博之

I 研究の背景

平成 28 年 3 月に大分県教育委員会は、大分県長期教育計画「教育県大分」創造プラン 2016 を策定し、「生涯にわたる力と意欲を高める『教育県大分』の創造」という基本理念を掲げてその実現を目指している。第 2 章施策では、「(1) 確かな学力の育成」の中の主な取組として、①「付けたい力を意識した密度の濃い授業」の追求、②組織的な授業改善の推進を挙げて推進している。「①『付けたい力を意識した密度の濃い授業』の追求」は、新大分スタンダードを軸に授業改善が進められ、「②組織的な授業改善の推進」は、組織力を強化するための観点の深化を進めるとともに、当教育センターにおいて、学力との相関を示すエビデンスの獲得に向けた調査研究も行われたところである。

しかしながら、平成 28 年、29 年の全国学力・学習状況調査における学校質問紙・児童生徒質問紙調査の結果から、学校質問紙の回答と児童生徒質問紙の回答とで乖離している項目が見られた。このことから、学校と児童生徒で意識の差が見られ、学校の取組が児童生徒の学びの実感に繋がっていないのではないかと考えられた。

そこで、全国学力・学習状況調査のデータを用いて、成績上位校と下位校における学校質問紙と児童・生徒質問紙の調査結果の違いの有無から、学力向上につながる組織的な取組を明らかにすることをねらいとする。

II 調査・研究の目的

各種学力調査において、学校は、教科結果の分析だけでなく、学校や児童生徒に対する質問紙の分析を行い、学校の取組の見直しを行っていると思われるが、今回、学校質問紙と児童生徒質問紙の共通の質問項目について、学校質問紙と児童生徒質問紙の回答値の差を見ることで、学校が進めている実践がどれだけ児童生徒に伝わり、学習に活かされているかを捉えることができると考えた。

そこで、全国学力・学習状況調査の学校質問紙と児童生徒質問紙の共通項目に関する回答値の差の分析を通して、学力との関連性や学力向上につながる組織的な取組に違いを見出し、大分県の教育施策に資することを目的とした。

III 調査・研究の内容

1 調査対象の選定

大分県内の小中学校から、平成 30 年度と 31 年度の全国学力・学習状況調査の教科調査の結果において、[表 1] のように、2 年連続で全国平均正答率を上回った学校（以下、2 年連続で上回った学校と記述）を最上位から順に、2 年連続で全国平均正答率を下回った学校（以下、2 年連続で下回った学校と記述）を最下位から順に、児童生徒数が同人数程度になる様に選んだ。

[表 1] 調査対象校数と児童生徒数

	小学校	中学校
2年連続で全国平均正答率を上回った学校	37校 (890名)	24校 (1509名)
2年連続で全国平均正答率を下回った学校	23校 (907名)	22校 (1558名)

大分県教育センター教科研修部

2 調査項目の選定

平成 31 年度全国学力・学習状況調査において、学校質問紙と児童生徒質問紙の双方で同じ質問内容を中心に選定し、学校質問紙の項目を〔表 2〕に、児童生徒質問紙の項目を〔表 3〕に、共通質問項目を〔表 4〕にまとめた。

〔表 2〕 学校質問紙の調査項目

分類	番号	学校質問紙	
生児童	1	児童生徒は、授業中の私語が少なく落ち着いている	
	2	児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている	
取組状況	3	将来就きたい仕事や夢を考えさせる指導をした	
	4	学習規律(私語をしなない等)の維持を徹底した	
	5	児童生徒一人一人の良い点や可能性を見つけ評価する(褒める等)取組を行った	
	6	総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探求の過程を意識した指導をしている	
	7	学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っている	
	8	学級活動の授業を通して今努力すべきことを学級での話し合いを生かして一人一人の生徒意思決定できるような指導を行っている	
	9	道徳の時間において、生徒自らが自分自身の問題として捉え考え話し合うような指導の工夫をした	
	10	各教科等で身につけたことを様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた	
	国語	11	補充的な学習の指導を行った
		12	発展的な学習の指導を行った
教算数	13	補充的な学習の指導を行った	
	14	発展的な学習の指導を行った	
	15	実生活における事象との関連を図った授業を行った	

〔表 3〕 児童生徒質問紙の調査項目

分類	番号	児童生徒質問紙
生活	1	将来の夢や目標を持っている
	2	学校のきまりを守っている
先生	3	先生は、あなたのよいところを認めてくれている
	4	先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれている
取組状況	5	授業では課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいた
	6	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる
	7	学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている
	8	学級活動における学級での話し合いを生かして今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる
	9	道徳の授業では、自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる
	10	授業で学んだことを他の学習に生かしている
算数国語学	11	国語の授業の内容はよく分かる
	12	算数・数学の授業の内容はよく分かる
	13	算数・数学の授業で学習したことは将来社会に出たときに役立つ

〔表 4〕 学校質問紙と児童生徒質問紙の共通の調査項目

	学校質問紙	児童生徒質問紙		
生児童	1	授業中落ち着いている	2	学校のきまりを守る
	2	授業での主体性がある	5	授業に主体的に取り組む
学校及び児童生徒の取組状況	3	将来就きたい仕事や夢の指導	1	将来の夢や目標を持つ
	4	学習規律の徹底	2	学校のきまりを守る
	5	児童生徒を褒める等の評価	3	よいところを認めてくれる
	6	総合的な学習の時間での学習指導	6	総合的な学習の時間での学習活動
	7	学級活動で合意形成の指導	7	学級活動での合意形成ができている
	8	学級活動で意思決定の指導	8	学級活動での意思決定ができている
	9	道徳の時間での学習指導	9	道徳の時間での学習活動
	10	様々な場面での課題解決支援	10	他の学習に生かす

3 各種質問紙の回答値

学校質問紙と児童生徒質問紙の回答値を、〔表 5〕のように設定する。

〔表 1〕の対象校、対象児童生徒に対して、平均回答値を算出した。

〔表 5〕 回答類型と回答値

回答類型	回答値
当てはまる	4
どちらかと言えば当てはまる	3
どちらかと言えば当てはまらない	2
当てはまらない	1

4 研究内容

4-1 学校質問紙の回答値の差を比較

学校の取組の違いを明らかにするため、〔表 2〕の項目について、2年連続で上回った学校と、2年連続で下回った学校における学校質問紙の回答値の差を比較する。

4-2 児童生徒質問紙の回答値の差を比較

児童生徒の取組状況の違いを見るため、〔表 3〕の項目について、2年連続で上回った学校と、2年連続で下回った学校における児童生徒質問紙の回答値の差を比較する。

4-3 学校質問紙の回答値と児童生徒質問紙の回答値の差を比較

学校の取組状況に対する児童生徒の実態を見るため、〔表 4〕の項目について、2年連続で上回った学校と、2年連続で下回った学校における学校質問紙の回答値と児童生徒質問紙の回答値の差を比較する。

児童生徒が伸長を実感できる教育の実践分析

IV 調査・研究の結果

学校質問紙 [表 2]，児童生徒質問紙 [表 3]，共通項目 [表 4] のそれぞれの回答値は，下記のように [表 6]～[表 8] の結果となった。

[表 7] 児童生徒質問紙 [表 3] の回答値と差

[表 6] 学校質問紙 [表 2] の回答値と差

学校質問紙			小学校			中学校			
			2年連続上	2年連続下	差	2年連続上	2年連続下	差	
生児童	1	授業中落ち着いている	3.51	3.04	0.47	3.83	3.18	0.65	
		授業での主体性がある	3.35	2.74	0.61	3.42	2.82	0.60	
	取組状況	3	将来就きたい仕事や夢の指導	3.38	2.91	0.47	3.63	3.55	0.08
			学習規律の徹底	3.76	3.35	0.41	3.88	3.86	0.02
		5	児童生徒を褒める等の評価	3.76	3.65	0.11	3.75	3.64	0.11
			総合的な学習の時間での学習指導	3.35	3.13	0.22	3.42	3.36	0.06
		7	学級活動で合意形成の指導	3.46	3.39	0.07	3.58	3.55	0.03
			学級活動で意思決定の指導	3.49	3.35	0.14	3.58	3.55	0.03
		9	道徳の時間での学習指導	3.35	3.43	-0.08	3.25	3.18	0.07
			様々な場面での課題解決支援	3.32	3.04	0.28	3.21	3.09	0.12
国語		11	補充的な学習指導	3.70	3.13	0.57	3.38	3.36	0.02
		12	発展的な学習指導	3.30	2.74	0.56	3.38	2.91	0.47
数算数学	13	補充的な学習指導	3.76	3.35	0.41	3.50	3.50	0.00	
	14	発展的な学習指導	3.30	2.70	0.60	3.29	2.68	0.61	
	15	実生活における事象との関連	3.14	2.96	0.18	3.29	2.82	0.47	

児童生徒質問紙				小学校			中学校		
				2年連続上	2年連続下	差	2年連続上	2年連続下	差
生活	1	将来の夢や目標を持つ	3.43	3.39	0.04	3.06	3.09	-0.03	
		学校のきまりを守る	3.49	3.29	0.20	3.66	3.53	0.13	
先生	3	よいところを認めてくれる	3.47	3.22	0.25	3.30	3.16	0.14	
		分かるまで教えてくれる	3.68	3.53	0.15	3.48	3.31	0.17	
取組状況	5	授業に主体的に取り組む	3.29	3.03	0.26	3.07	2.94	0.13	
		総合的な学習の時間での学習活動	3.00	2.60	0.40	2.85	2.59	0.26	
	7	学級活動での合意形成ができている	3.13	2.82	0.31	3.15	2.92	0.23	
		学級活動での意思決定ができている	3.28	2.86	0.42	3.02	2.89	0.13	
	9	道徳の時間での学習活動	3.38	3.05	0.33	3.26	3.04	0.22	
		他の学習に生かす	3.30	3.13	0.17	3.07	2.93	0.14	
	算数・国語・数学	11	国語の授業がよく分かる	3.33	3.16	0.17	3.13	2.98	0.15
		12	算数・数学の授業がよく分かる	3.36	3.20	0.16	3.18	3.00	0.18
		13	算数・数学は将来役立つ	3.73	3.58	0.15	3.18	3.14	0.04

[表 8] 共通項目 [表 4] の回答値の差

小学校			共通質問項目	中学校			
2年連続上	2年連続下	絶対値の差		絶対値の差	2年連続上	2年連続下	
0.02	-0.25	-0.23	生児童	1-2 学校のきまり	-0.18	0.17	-0.35
0.06	-0.29	-0.23		2-5 授業での主体性	0.23	0.35	-0.12
-0.05	-0.48	-0.43	取組状況	3-1 夢や目標	0.11	0.57	0.46
0.27	0.06	0.21		4-2 学校のきまり	-0.11	0.22	0.33
0.29	0.43	-0.14		5-3 よいところ	-0.03	0.45	0.48
0.35	0.53	-0.18		6-6 総合的な学習の時間	-0.20	0.57	0.77
0.33	0.57	-0.24		7-7 学級活動での合意形成	-0.20	0.43	0.63
0.21	0.49	-0.28		8-8 児童生徒の意思決定	-0.10	0.56	0.66
-0.03	0.38	-0.35		9-9 道徳の授業	-0.13	-0.01	0.14
0.02	-0.09	-0.07		10-10 他の学習に生かす	-0.02	0.14	0.16

V 考察

1 研究内容 4-1 の考察

[表 9] は，国語科，算数・数学科における学習指導の違いを見るため，[表 6] の網かけ部分をまとめたものである。

中学校では，「補充的な学習指導」より「発展的な学習指導」の差が大きい結果となった。また，小学校でも「発展的な学習指導」の差が，中学校と同等の結果となった。

このことから，発展的な学習指導の充実が教科調査の結果につながっていると考えられる。

[表 9] 教科指導に係る学校質問紙の回答値の差

学校質問紙					
国語	11	小学校の差		中学校の差	
		補充	0.57	補充	0.02
国語	12	発展	0.56	発展	0.47
	数算数学	13	補充	0.41	補充
14		発展	0.60	発展	0.61
15		実生活	0.18	実生活	0.47

2 研究内容 4-2 の考察

[表 10] は，児童生徒の取組状況の違いを見るため，[表 6] と [表 7] の白抜きの部分を抜き出し，小学校と中学校別に整理したものである。

小学校と中学校のほとんどの項目で，児童生徒質問紙の差が学校質問紙の差より大きい結果となった。

このことから，学校が進めている実践がどれだけ児童生徒に伝わり，学習に生かされているかは，児童質問紙の結果をしっかりと分析し，学校の取組に生かしていく必要があると考える。

[表 10] 取組状況の学校回答値の差と児童生徒回答値の差

取組状況	学校質問紙の差	小学校		中学校		
		児童質問紙の差	児童質問紙の差	児童質問紙の差	児童質問紙の差	
6	総合的な学習の時間	0.22	0.40	0.06	0.26	
	7	学級活動での合意形成	0.07	0.31	0.03	0.23
	8	学級活動での意思決定	0.14	0.42	0.03	0.13
	9	道徳の時間	-0.08	0.33	0.07	0.22
	10	他の学習に生かす	0.28	0.17	0.12	0.14

3 研究内容4-3の考察

[表8]のように、絶対値の差がマイナスになった項目（白抜き部分）が、小学校では9項目、中学校では8項目あり、2年連続で上回った学校の方が、2年連続で下回った学校より、学校質問紙と児童生徒質問紙の回答値の差が小さい結果となった。

[表11]は、学校の取組状況に対する児童生徒の実態を見るため、[表8]の白抜き部分から、小学校、中学校ともに、2年連続で上回った学校の方が、2年連続で下回った学校より回答値の差が小さかった項目を抜き出したものである。その中で、「総合的な学習の時間」や「道徳の授業」、「学級活動の時間」に係る項目は、他の項目より開きが大きいことが分かった。

このことから、探求的な学習指導、話し合いや議論の充実が教科調査の結果に反映されていると考えられる。

また、[表12]は、児童生徒に対する学校の見取りと児童生徒の実態の違いを見るため、[表8]の児童生徒に関する項目の網掛け部分を抜き出したものである。[表12]児童生徒に関する学校回答値と児童生徒回答値の差この2項目に関しては、2年連続で下回った学校において、小学校、中学校ともに、児童生徒質問紙の方が学校質問紙より高い結果になり、学校の見取りと違いがあることが明らかになった。

このことから、学校の見取りと児童生徒の実態に差が生じないように、取組の成果を児童生徒の姿から短期で見取り見直していく等の工夫が必要であると考えられる。

[表11] 取組状況に関する学校回答値と児童生徒回答値の差

小学校			共通質問項目	中学校			
2年連続上	2年連続下	絶対値の差		絶対値の差	2年連続上	2年連続下	
0.29	0.43	-0.14	取組状況	5-3 よいところ	-0.03	0.45	0.48
0.35	0.53	-0.18		6-6 総合的な学習の時間	-0.20	0.57	0.77
0.33	0.57	-0.24		7-7 学級活動での合意形成	-0.20	0.43	0.63
0.21	0.49	-0.28		8-8 児童生徒の意思決定	-0.10	0.56	0.66
-0.03	0.38	-0.35		9-9 道徳の授業	-0.13	-0	0.14
0.02	-0.1	-0.07		10-10 他の学習に生かす	-0.02	0.14	0.16

[表12] 児童生徒に関する学校回答値と児童生徒回答値の差

小学校		共通質問項目	中学校		
2年連続上	2年連続下		2年連続上	2年連続下	
0.02	-0.25	児童生徒	1-2 学校のきまり	0.17	-0.35
0.06	-0.29		2-5 授業での主体性	0.35	-0.12

VI 成果と課題

1 成果

- ・国語、算数、数学という教科の違いに関わらず、発展的な学習指導の充実が重要であることが明らかになった。
- ・取組状況においては、学校質問紙より児童生徒質問紙の回答値の分析から、取組の成果を捉え、改善につなげていくことが重要であることが明らかになった。
- ・学校質問紙と児童生徒質問紙の共通項目において、多くの項目で、2年連続で上回った学校の方が、学校質問紙と児童生徒質問紙の回答値の差が小さくなった。特に、「総合的な学習の時間」や「道徳の授業」、「学級活動の時間」での充実が重要であることが明らかになった。

2 課題

- ・数値分析のみならず、学校の具体的な取組内容を把握し、その違いを明らかにすることで、学校の取組の改善に生かしていく必要がある。
- ・学校の取組の成果を、児童生徒の実態で見取ることができるよう、短期による分析方法を検討していく必要がある。
- ・成果につながる取組を検証するために、同一校による経年比較を行う必要もある。

VII 参考文献

- ・平成31年度全国学力・学習状況調査報告書（文部科学省 国立教育政策研究所）